

## 第1回 現本庁舎等跡地活用に関する検討委員会（議事概要）

- 1 日 時 平成30年8月30日（木）午後1時30分～午後3時
- 2 場 所 市役所本庁舎6階第1会議室
- 3 出席者 委員14名のうち12名出席  
（福山敬、大谷芳徳、木谷清人、坂本雄司、橋本孝之、金谷達美、西岡大穂、土橋周美、民野千秋、木下裕、宍道真理子、谷上雄亮） ※敬称略
- 4 内 容 （1）委員長・副委員長の選出について  
・委員長：福山 敬 委員  
・副委員長：坂本 雄司 委員  
（2）議事  
資料1、資料2に基づき事務局より説明し、委員の意見を伺った。質疑応答の要旨は以下のとおり。

- 
- ・委員：岐阜市の規模は。
  - ・事務局：人口約40万人。
  - ・委員：市民会館は今後もこのまま使用するのか。
  - ・事務局：市民会館は建築から約50年が経過している。平成22年に耐震改修等を実施したが、建物の耐用年数を踏まえ更新等を検討する時期に来ている。今回の跡地活用、周辺の市公共施設（福祉文化会館等）の検討と併せてあり方を検討する必要がある。
  - ・委員：この委員会は資料2の岐阜市の事例で例えると、市民ワークショップ、市庁舎跡地活用基本構想策定委員会（外部有識者会議）のどちらかにあたるか。
  - ・事務局：この委員会は、跡地活用の方策をどのように決定していくかを議論していただく会議。岐阜市の事例にはない。
  - ・委員：市議会のトークカフェ（市民との対話集会）は実施済みか。
  - ・事務局：実施済み。市議会本庁舎跡地等活用に関する調査特別委員会（以下、市議会特別委員会）は9月定例会での最終報告を予定。この最終報告での意見も参考にしながら、この委員会で検討を行っていく。
  - ・委員：岐阜市の活用事例しかないが、これにならうのか。
  - ・事務局：岐阜市の事例は、本市と同時期に市庁舎移転が決まった事例として紹介している。必要であれば他の事例等も提供する。市議会特別委員会は岡山市などの事例を視察しているが、ゼロベースでの検討事例ではないため紹介していない。
  - ・委員：委員会の開催回数が増える可能性があるのか。
  - ・事務局：今年度は3回を予定しているが、さらなる議論が必要な場合は来年度の継続も想定しているため、委員任期を平成32年3月までとしている。
  - ・委員：この委員会は具体的な跡地活用方策を検討するのではなく、合意形成を図るための進め方について検討を行うということか。有識者会議やパブコメ等の手法を検討するということか。市民会館を併せて考えると進め方も変わってくるのではないか。

- ・事務局：この委員会は、跡地活用をどのように決めていくかを議論するものである。具体的な活用方法は次の段階で考えていきたい。人口減少が進む中、現在ある公共施設数をこのまま維持していくのは困難であり、統合や廃止も検討する必要がある。市民会館だけでなく、周辺の公共施設のあり方も含めた検討が必要。そのあたりに関して市民の意見を聞くのかどうかなどについても、この委員会で議論いただきたい。
- ・委員：基本構想策定やアンケート、ワークショップ、外部有識者会議やパブコメなどのスケジュールや手法を決める、決めるためにはどういった資料が必要かというようなことを検討していくということではどうか。
- ・事務局：一般的には岐阜市のような進め方になると思う。市民アンケートやワークショップなどを重ねるのが合意形成の一つのプロセスであり、ある程度固まった段階で有識者会議を開いて決めていくというイメージだと思う。今回は、この委員会で手法やタイムスケジュール等に関しての意見をいただきながら作業を進めていくというような考え方である。
- ・委員：ホール利用の需要を把握するため、パレットとったりや県民文化会館などの利用率に関する資料が欲しい。耐用年数の話があったが、公共施設のマネジメントは税金に関わってくるので市民の関心も高いと思う。現本庁舎の建物を活用してはどうかという意見があった場合に、どれくらいの改修費用が必要なのかかわかる資料があったほうがよい。以前にあったIs値0.2、0.24を0.6以上として耐震改修した場合の見積金額は防災拠点としての改修費用か、一般公共施設としての改修費用か。
- ・事務局：この本庁舎を免震構造にした場合は、当時の金額で11億8千万円かかるということであった。庁舎として改修するため、防災拠点として地震に耐えられる建物であることが前提。第二庁舎については、当時、取壊しを前提に考えていたため算出していない。
- ・委員：まったくのゼロベースからアンケートを実施したとしても回答率が低い可能性もある。それを市民全体の意見としてみることはできるのか。文化施設など、具体的な活用案が必要ではないか。
- ・事務局：アンケートのみでなくワークショップやパブリックコメントなど、市民の意見を聞くさまざまな機会も必要と考える。
- ・委員：岐阜市のアンケート内容はどのようなものか。
- ・事務局：次回委員会で提供する。
- ・委員：この委員会で検討するのは、庁舎を撤去した後の跡地の利用という考え方ではどうか。
- ・事務局：この委員会で検討するのは跡地利用ということだが、現本庁舎を解体撤去するという最終決定はなされていない。解体撤去により更地とすることが基本だと考えるが、先日の市議会のトークカフェにおいては、建物を活用してはどうかという意見も出ている。耐震改修後に活用する場合にどのくらいの経費がかかるのかなどの情報を提示し、意見を聞く必要があるのではないかと考える。
- ・委員：市議会特別委員会の最終報告で具体的な活用案が提案された場合、この委員会としてはどのように扱えばよいのか。

- ・事務局：市議会特別委員会の提言をどこまでこの委員会での判断材料とするのかについては、提言を見たうえで議会とやりとりをしてみないとわからない。
- ・委員：最終報告の内容について関知していないため、現段階ではどのように判断すべきかわからないということか。
- ・事務局：そのとおり。
- ・委員：庁内調整会議で検討を行っていることも、市議会で検討を行っていることも理解できる。両者が検討する中でこの委員会も含めたすり合せの作業を行いながら進めていく必要がある。
- ・事務局：お互い情報共有しながら進めていく必要がある。
- ・委員：岐阜市以外にも鳥取市と人口規模やまちの成り立ちが似ている自治体の実施したアンケートの内容・結果があれば提供して欲しい。またワークショップのテーマや導き出した答え・内容などがあれば併せて提供して欲しい。市民から有効な答えが返ってくるのかどうかの参考になると思う。
- ・事務局：可能な限り準備する。
- ・委員：他都市での跡地活用の取組みにおける反省点などに関してもあれば知りたい。
- ・事務局：要望のあった資料については次回委員会資料として事前に送付させていただく。

以 上